

村山市消防団広報誌

第3号

H17.12 村山市消防団発行

平成17年度 ポンプ交付式



積載車完備

編集委員長

第三副分団長

齋藤 吉美

この度、楯岡、大倉、大久保に小型ポンプ積載車が配属され、念願の全分団への導入が完了しました。これによりポンプ車と小型ポンプ積載車を利用した防火広報や、災害時の円滑な運用が可能になりました。これもひとえに、市当局をはじめ消防関係者の、並々ならぬご尽力と深く感謝申し上げます。

村山市は団の機構改革を進めながら、魅力ある消防団づくりを目指して頑張っておりますが、世相にあいまって現状は厳しく、仕事を持ちながらの消防団活動は団員の心労をも増大させる結果となっていることも、悲しい現実でありました。

しかし、消防団に対する絶大なご理解による装備拡充の実現で、それらも軽減され我々幹部も一同に安堵しておりますところですが、先輩から受け継いだ「消防魂」を、先端技術のポンプ車や、小型ポンプ積載車を利用し、消防団活動を確立しながら、後輩へと繋ぐべく日々切磋琢磨しております。これからも消防団へのご理解とご指導をよろしくお願い申し上げます。

春の防災訓練



八鍬 忠則

四月に入ったとはいえ、大雪のなごりで田畑に雪が残り、また主会場の市民センター前にうず高く積まれた雪で訓練会場の確保も危ぶまれる中、今年度の市防災訓練が袖崎地区土生田区内で実施されました。

訓練は昨年十月に発生した新潟中越地震を踏まえ、大規模地震の発生を想定し、中越地震の際に実際救助に参加した市の消防職員の経験をもとに、より実践的なもので自主防災会を中心に実施されました。地震というタイムリーな想定だったので参加した地域の方々、見学の方々も危機感と高い関心を持って訓練に取組んでいたことができ、大変意義のある訓練であったと思います。

大規模地震の場合、我々消防団員も被災者となる可能性が高く、実際にはどのような活動ができるかという不安はありますが、地域でより実践的訓練を行なうことで、有事の際には消防団員も地域全体としての活動ができると思います。ご協力いただきました関係者の方にはこの場を借りてお礼申し上げます。

女性が操法に参加して



「操作 はじめー」「よしー！」とうとう本番です。朝三時半に起き、アップをすませていた私に、一番くじはラッキーでした。十七日間の訓練中にはいろいろな事がありました。訓練を積み重ねるほど、新たな失敗や疑問が出てきて、何回も繰り返し汗を流す毎日でした。署員の方の「GO!」の合図は、私の「やらなきゃ」という気持ちをかき立ててくれました。結果がよければ誉めてくれ、気をよくして又、訓練に励む私はまるで警察犬にでもなった様な気分でした。声が小さいのは許さないと言われた時は、もったいないけど女を捨てました。(でも、その言葉は嬉しかったです。複雑!) 結果は、慎重になり過ぎて期待に答えられなかったことが残念でなりません。

最後に、この大会に参加することが出来たのは、消防関係の方々をはじめ、職場や家族の理解があったからこそ実現できたものとお心から感謝しています。貴重な体験をさせていただきます、皆さん本当にありがとうございます。

須藤 陽子

新しい分団車が配属されて



増川久仁男

最新鋭の分団車が配属になりました。モニターがついていて圧力設定、各種制御状態が確認できるようになっています。それゆえ、頭が固くなっている我々にとっては、ついに行くのが精一杯の一年間でした。反面、最新鋭ゆえの弱さをまざまざと見せつけられ、勉強になった一年間でした。バッテリー、真空ポンプを始め、ありとあらゆるところで壁に突きあたり、署に走ったこともたびたび、署員の方に聞くと「おらだのより新しいので解らない。なすえすっどええんだべ」と一緒に考え込んでしまう事も。操法大会に向けての練習の時も、いろいろ設定を変えたり大変でしたが、しかし、そんな時もあるいろいろ教えていただいた署員の方々に感謝したいと思います。

これからは、誰でも水が出せる八分団車を目指して、訓練を重ね、機動力を十分発揮できるようにしていきたいと思えます。

「こちらは八分団車です。どちら様も火の取り扱いには十分ご注意ください。火の用心」

消防学校を経験して



消防団教育を通しての四日間は、大変有意義なものでした。体育館での号令の訓練、屋内訓練場での災害時等の訓練などを、興味深く経験することができました。また、別棟の実験棟では、油の温度に対する変化なども実験し、最後に火柱を目の当たりにした授業では、恐怖感を覚えました。また、隣接する学習館においては地震体験や消火器での模擬消火体験、電話等での通報体験、煙発生時の避難体験、心肺蘇生法など多彩に体験できました。僅か四日間ではありましたが、十分に消防人としての志気を感じとれた今回の消防学校入校でありました。これらは全て未来におこりえる災害の例であり、学んだ数々の経験は遺憾なく発揮できればと思います。最後に、学んだ言葉の中に、「火災は、人災である。必ず予防できる。」という言葉が印象に残った四日間の消防学校でした。 外塚 秀信

徳内祭り 警備に思う



初日、二日目と雨になった徳内祭り、最終日の三日目になり天候にも恵まれ多くの人出が予想される中で、六分団は駅構内の各部署に一名から二名の体制で警備に当たった。警備の合い間に間近に見えていた祭りも、駅構内からは見る事が出来ず少し残念である。

駅構内は、電車の到着と合わせ西口から東口に向かう人でとぎれることはない。その時、東口階段で「ワァー」と声を上げ立ち止る人がいる。「危険です、立ち止まらないでください」と声をかける。正面のガラス越しに見える勇敢な徳内祭りが目に飛び込んでくるからだ。

警備中多くの人に色々と尋ねられるが、分らない事が多く「案内所で聞いて下さい」と答えるだけで誠意ある対応が出来ない。もつと祭りの内容も知る必要があると実感する。今年から昼の部がなく暑さの中での警備がなぐ楽になったがそれでも疲れる。祭り帰りの多くの人から「御苦労様」と声をかけられると疲れも忘れてしまう。事故のない徳内祭りになり長いようで短い警備だった。

笹原 純一

積載車の納車について思う



真新しい車体と車庫を目にして心身とも、一新し身の引き締まる思いで、納車式を迎え大変喜んでいきます。

今までの車庫は、昭和三十年代に建てられたもので、シンボルの火の見櫓とともに地区を見守ってきたのですが、老朽化が進み役割を無事果たして、引退となり寂しい気持ちは隠せませんでした。

しかし地区民の方々始め関係者の協力と御理解により、車庫の場所も、活動しやすく、地区の中心部に設置することができ今後の消防団活動も安心してスムーズに対応できると感謝しております。

地区民を災害から守る為には、日頃の訓練や設備の充実が大切であり、今の時代はフットワークの良さが求められていると思います。

災害を出さない地域、災害を最小限に、食い止める消防組織づくりを担うことができる積載車であると思ひ、その必要性は不可欠であると思ひます。また消防団の意識向上の為に地区の広報活動も実施し、班長を中心とし団員が全員当番制で乗車して積載車の性能を把握して、地域の人達に信頼される消防団を目指し日々精進していきたいと思ひます。

松田 健一

あなたの力を、郷土のために発揮してみませんか

消防団員募集!!

村山市消防団では、郷土を守る心意気にあふれた、平成18年度の新入団員を募集しています。消防団員は、自分の仕事を持ちながら必要に応じ召集されて消防団活動を行います。入団すると、活動服・アポロキャップなど消防活動装備が貸与されます。また、万が一ケガをした時は、程度に応じた補償がされます。

消防団に入団して



大沼あけみ
「整列!」「右向け右!」「直れ!」「休め!」
と、キビキビした先輩
方の号令に、入団した

ばかりの私は驚きと不安で一杯になりました。しかし、訓練を重ねる度に驚きと不安は消え、今私は消防を通して地域の役に立ちたいと思っています。火災の時の消火はもちろん、日頃から火災の起こらぬ様に、地域の皆さんと心掛けていきたいものです。

操法に想う



増川正範
今回操法大会に出場
し、いかに災害現場で
の早さ、正確さ、信頼
性をすごく胸中に感じ
させられました。また、その思いの言葉
どおり私達操作員は、優勝を目指そうと
数ヶ月前から連日連夜練習に明け暮れて
きました。しかし、その甲斐もなく優勝
ではなく技能賞という結果に終わってし
まい、本番では何が起るか分からない
と操作員全員で反省しました。

この消防操法訓練を通して、今までになかった地域住民とのふれあい、団結力ができ、私の操法に対しての想いが、これから先も継続していこうと強く感じております。

消防大演習



板垣真一
村山市消防団
に入団し初めて
の消防大演習。
八百人を超える

団員が一堂に集合し、号令ひとつで一糸乱れぬ動作。その中に自分も参加し、今まで経験したことのない感動を覚えました。楯岡小学校での各種訓練を終えて東沢公園で行われた分列行進と一斉放水は消防の「心意気」を肌で感じる素晴らしいものでした。市民の皆さんも来年は是非足を運んで御覧下さい!

消防団に入団して



奥山仁
村山市消防団
に入団して、早
くして半年が過ぎ
ました。初めて

の経験で、何もかもわからないまま活動してきましたが、ようやく活動にも慣れ、地域住民の期待に応えられる様に頑張りたいです。また、先輩団員の指導・協力をもらいながら責任ある行動を取っていきたいと思いますので、これからは様々な行事や訓練などがあると思いますのでご指導をお願いします。

新入団員からのひとこと

地区防災訓練に参加して



藤泰一
十月三十日、
私の住む杉島
を会場に、西
郷地区の防災

訓練が行われました。大地震から火災が発生したことを想定して、実践しながらの水出し操法が披露され、新入団員の私は吸管補助を担当しました。先輩方のきびきびした行動に感動を覚え、この訓練を糧に今後杉島地区からの火災は0件にしたいと決意を新たにしました。

編集委員

- 委員長 齋藤吉美
- 第三副分団長 菊地幸一
- 副委員長 第四副分団長
- 委員長 田中雅幸
- 第一副分団長 高橋 昭
- 第二副分団長 佐藤春夫
- 第五副分団長 三浦純一
- 第六副分団長 永岡達男
- 第七副分団長 大田一重
- 第八副分団長

広報誌に関するご意見・ご感想は消防本部 ☎ 五五―二五―一四 までお寄せください。